

きのこのお話し（まとめ）

「きのこ」は、自然界で生きていくため(生態系)になくてはならない存在です！



緑の地球は、多くの生物が相互に支えあう生態系で成り立っています。

- 植物…無機物から有機物を作る
- 動物…植物(有機物)を食べて生きる
- 菌類・細菌類
…動植物を分解して無機物にする

この三者がおりなす
限りない循環体系が生態系です。

また、生態系の中では食うか食われるかの食物連鎖によって自然界の平衡がうまく保たれています。

きのこの働き

「きのこ」は、生態系の中で**動植物を分解して土に戻す重要な働き**をしています。

- 腐生菌…枯れた木や落ち葉などの植物遺体や動物遺体を分解する
- 菌根共生菌…菌と植物とが、植物の根で合体し、相互に栄養分の交換をする
腐生菌…………シイタケ、エノキタケ、ブナシメジ、マイタケ等食用きのこ
菌根共生菌……外生菌根菌→マツタケ、ホンシメジ
内生菌根菌→蘭等

このように、人間をはじめ多くの動物が食料として「きのこ」を食べるのは、生態系の働きのひとつといえます。

きのこは植物ではありません

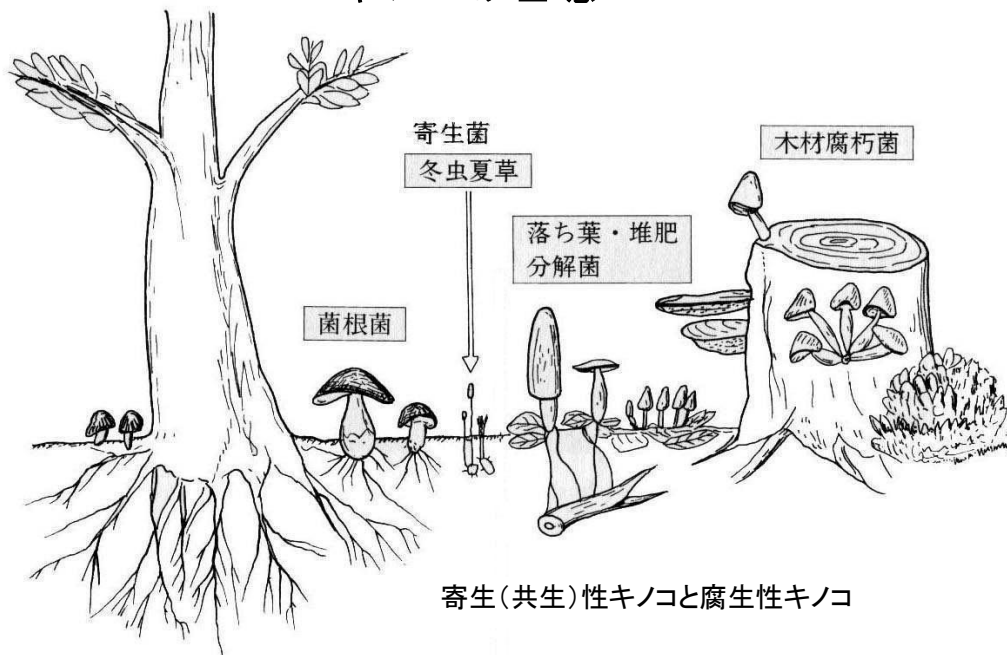
きのこは菌類の一種である**真菌類**に属し、カビや酵母(お酒や味噌は酵母の力で発酵してできる)と大変近い関係にあります。生態系の項でも述べましたが、菌類の役目は、他の成分(動植物の死骸など)を分解して土に戻すことです。もし、地球上に菌類がいなかったら、生物はその寿命が尽きた後も分解されないことになり、自然界の循環が途絶えてしまうことになります。そのため菌類の果たす役割はとても大切です。

ところで、きのこは動物でも植物でもありません。もっとも、きのこをはじめとする菌類が「第三の生物」として認められるようになったのはつい最近のこと。それまでは、長い間植物の仲間とされてきました。

私たちがきのこを食べるのは、いわゆる傘と柄の部分になりますが、この部分は植物でいえば**繁殖器官である「花」**にあたります。きのこの場合には、これを「花」ではなく、「**子実体**」といい

ます。この子実体は、菌糸体という糸のように長い細胞から発芽し、胞子を作って放出しながらどんどん仲間を増やしていきます。このような繁殖形態からいっても、動物でも植物でもないことがわかります。

キノコの生態



子実体を作る時期以外のキノコは写真のようなカビの状態で存在しています。



ハツタケの菌根

